

## CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

### 私たちのCSR（企業の社会的責任）

東京ガスグループは、日々の事業活動を通じてCSRと公益的使命を果たしていく「CSR経営」の推進を明確化し、取組みを進めています。そして、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメントなどに真摯に取り組み、「社会の公器」としてステークホルダーの信頼に応えていきます。具体的には、「保安・防災」「環境」「パートナーシップの構築」をCSRの重点活動として継続的に推進し、地域社会との信頼関係構築を第一に、日々の事業活動を通じて社会に貢献していきます。

お客さまや社会から信頼され、選ばれ続ける企業グループへ

#### オール東京ガスにおけるCSR経営の推進



##### 保安・防災

さらなる保安の向上・  
防災対策の強化



##### 環境

環境経営のトップランナー  
に向けた幅広い取組み



##### パートナーシップ

ステークホルダーとの  
パートナーシップ構築

#### オール東京ガスによる事業活動

LNGバリューチェーン

経営理念と企業行動理念

#### 経営理念と企業行動理念

##### 経営理念

東京ガスグループは、天然ガスを中心とした「エネルギーフロンティア企業グループ」として、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会から常に信頼を得て発展し続けていく。

##### 企業行動理念

- ① 公益的使命と社会的責任を自覚しながら、企業価値を増大させていく。
- ② 常にお客さま満足の向上をめざし、価値の高い商品・サービスを提供する。
- ③ 法令およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって、公正かつ透明な企業活動を行う。
- ④ 環境経営トップランナーとして、地球環境問題の改善に貢献する。
- ⑤ 良き企業市民として奉仕の精神を深く認識し、豊かな社会の実現に貢献する。
- ⑥ 絶えざる革新により、低コスト構造で、しなやか、かつ強靱な企業体質を実現する。
- ⑦ 一人ひとりの「能力・意欲・創意」の発揮と尊重により、「活力溢れる組織」を実現する。

## 保安・防災

### 私たちの果たすべき責任

ガスをお使いいただくにあたり、「安全で使いやすいガス器具を開発してほしい」、「ついうっかり、といった操作ミスを防ぐような工夫をしてほしい」、あるいは「作業終了後、作業内容をしっかり説明してほしい」といったご意見を頂戴します。東京ガスグループでは、ガスをより安全にお使いいただくために、①事故やガス漏れ、故障等が発生しにくい設備や発生を抑制する機能の普及（ハード対策）、②正しい使い方の周知、定期点検の実施（ソフト対策）、③万一のガス漏れに対する緊急出動態勢の整備（緊急出動対策）を3本柱として安全対策を進めています。また、地震災害等の万が一の事態に備え、ガス供給を速やかに行うため「予防」「緊急」「復旧」の取組みを進め、お客さまの生活への影響を最小限にとどめる努力を続けています。

### 取組み

不完全燃焼防止装置が装備されていない湯沸器・風呂釜など非安全型機器の早期取替を進めるため、2007年1月より特別巡回・無償点検・取替補助を主とする「取替促進キャンペーン」を実施してきました。2010年3月末までに約55億円を投入し、対象機器約30万台のうち約18万台を削減してきました。特に、不完全燃焼防止装置のついていない小型湯沸器については約74%、CF機器\*については約62%を削減しています。キャンペーン期間は終了しましたが取替補助は継続し、「ガス設備定期保安点検」や「開栓」等の機会を通じて引き続き対象機器の早期削減に努めてまいります。併せて、ガスの安全性、環境性、利便性について正確な情報を提供し、お客さまのご要望にお応えできるよう充実したコミュニケーションを図ってまいります。

ガスの供給面では、2007年1月の北海道北見市での事故を受け、経年管対策強化の一環から要対策「ねずみ鑄鉄管」約1,200kmの入取替えを積極的に進めており、2010年3月期には111億円を投入し、166kmの入取替えを実施しています。こうした要対策「ねずみ鑄鉄管」はまだ約800km残されていますが、2016年3月期までに入取替えを完了する予定です。併せて、保安上重要とされる建物における「白ガス経年埋設内管」の対策についても、2016年3月期までの対策完了を目指しつつ、お客さまのご理解をいただきながら可能な限り前倒しできるよう努力しており、2010年3月期には約18億円を支出しています。

\* CF機器：燃焼用の空気を室内から取り、燃焼排ガスを自然通気力により排気筒を介して屋外に排出するガス機器

## TOPICS

### 地震防災システム「<sup>シュープリーム</sup>SUPREME」(Super-dense Realtime Monitoring of Earthquakes)



2001年7月に運用を開始した「SUPREME」は、約4,000ヶ所の地区ガバナ（整圧所）すべてに地震センサー（SIセンサー）を設置し、約1km<sup>2</sup>に1基という高密度を実現した世界でも例を見ない地震防災システムです。この「SUPREME」により、当社供給エリアを一定規模の「防災ブロック」に分割し、大地震の際には、ガス設備に被害がないエリアへのガス供給を継続し、ガス設備に大きな被害があったエリアには、「防災ブロック」ごとにガスの供給を迅

速に停止し、火災などの二次災害を防止する対策を可能としています。

2010年3月期には、供給停止地域を最小限に抑えるため「防災ブロック」の細分化を目的として、従来の101ブロックを136ブロックとし、1日も早いガスの復旧を目指しています。東京ガスは、今後、2013年3月期を目処にさらなる細分化を進め、約170ブロックに分割して、災害時のさらなる復旧早期化を目指していきます。



地震センサー配置図（赤点：東京ガス分 青枠：防災ブロック）



地震センサー

## 環境

### 私たちの果たすべき責任

東京ガスグループは、かけがえのない自然を大切に、資源・エネルギーの環境に調和した利用により地域と地球の環境保全を積極的に推進し、社会の持続的発展に貢献することを理念として掲げ、①お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減、②当社の事業活動における総合的な環境負荷の低減、③地域や国際社会との環境パートナーシップの強化、④環境関連技術の研究と開発の推進を目指しています。

### 取組み

東京ガスグループは、低炭素社会の実現、循環型社会の形成、自然共生社会構築に向けて、温暖化対策など6分野から構成される環境保全ガイドラインを定め、具体的な取組みを進めています。

例えば、温暖化対策においては、環境性に優れた天然ガスの利用促進と効率が高く環境負荷の小さな機器・システムの提供により、積極的かつ継続的に取り組んでいきます。お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出量について2016年3月期までに300万トン、2021年3月期に450万トンを抑制することを目標として掲げています(2005年比)。

循環型社会の形成においては、東京ガスグループにおいて効率的・効果的な環境マネジメント活動を展開し、事業活動における廃棄物等の発生抑制・再利用・再資源化とグリーン購入を積極的に推進し、環境負荷を総合的に低減させます。また、自然共生社会構築に向けて、生物多様性が生み出す恩恵の重要性を認識し、事業活動における生物多様性への影響の把握・分析、および事業の進め方の改善に努めるとともに、事業活動に関わらない生物多様性問題に対しても、社会貢献活動の観点から、生物多様性保全に資する活動を推進しています。

## TOPICS

### 電力事業における取組み



吾妻バイオパワー

2008年4月に営業運転を開始した川崎天然ガス発電(株)(東京ガス49%出資、42万kW×2基)と、2010年3月に1号機が営業運転を開始し、7月には2号機が営業運転を開始した(株)扇島パワー(東京ガス75%出資、40.7万kW×3基)では、いずれも最新鋭のガスタービン・コンバインドサイクル発電設備を採用し、最高効率約58%(低位発熱量基準・発電端)の性能を持ち、エネルギーの効率的な供給を実現します。

また、木質チップを燃料とするバイオマス発電所の(株)吾妻バイオパワー(東京ガス4.44%出資)については2010年度より営業運転を予定しており、年間8,500万kWh<sup>\*1</sup>の発電電力量により、CO<sub>2</sub>排出量約6万トン<sup>\*2</sup>の削減が期待されています。

\*1 発電端出力13,600kWの発電設備

\*2 代替する電力のCO<sub>2</sub>排出係数を火力平均の0.69kg-CO<sub>2</sub>/kWhとして計算

### 海外環境協力

メキシコの首都メキシコシティの北西260kmに位置するパヒオ市における発電事業に2004年10月から参加しています。パヒオ発電所は、60万kW(東京ガス持分49%)の天然ガス・コンバインドサイクルによるIPP(Independent Power Producer:独立系発電事業者)発電所であり、メキシコ電力庁および近隣の需要家に電力を供給しています。

また、2010年6月には、三井物産(株)と共同で、メキシコの火力発電事業会社5社およびパイプライン会社の買収を完了し、同国における発電事業での地歩をさらに強固なものとしています。いずれも天然ガス・コンバインドサイクルによるIPP発電所、総発電容量223万kW(東京ガス持分30%)であり、メキシコ電力庁との25年間にわたる長期契約のもと、電力を供給しています。両プロジェクトにより東京ガスは約96万kWの発電容量をメキシコに保有し、同国の電力安定供給の一翼を担っています。



## パートナーシップの構築

### 私たちの果たすべき責任

公益性の高い事業を営み、社会的使命を担う東京ガスは、株主の皆さまはもちろん、お客さま、従業員、取引先・パートナー、地域社会など様々なステークホルダーの皆さまとともに歩み、ともに社会の発展に貢献することを重要な課題のひとつとして取り組んでいます。そのために、あらゆるステークホルダーの皆さまとの関係の構築・維持・発展に向けて、真摯な努力を続けています。

### 取組み

株主の皆さまとは、IR活動を通じて資本市場におけるコミュニケーションを深め、経営の健全性・透明性を確保するとともに、資本市場の期待を経営に反映させ、東京ガスグループに対する理解と信頼の向上を目指します。

お客さまとの関係については、お客さまに選ばれ続けるために、「自分が何をお客さまに提供したか」ではなく、「お客さまがご満足いただけたか」を大切にしています。こうした考えのもと、オール東京ガスの基本姿勢を「CSマインド」として定め、「私たちの行動基準」の中に明文化しています。今後もこの内容をオール東京ガスの全員に周知徹底することで「お客さま本位」の企業グループを目指しています。

従業員については、やりがいを高め、それぞれが個性を十分に発揮できる「働きやすい職場」づくりを目指し、様々な制度を整えるとともに、制度利用のための意識啓発にも力を入れています。さらに、従業員の健康と安全な職場環境の整備を進めています。

取引先・パートナーとの関係については、公益的使命と社会的責任を果たすために、購買活動の行動基準を定め、信頼関係の構築に努めるなどの活動を行っています。

地域社会とのつながりにおいては、快適で心豊かに暮らせる社会の実現を目指し、暮らしに関わる課題の解決に取り組むなど、東京ガスだからできる活動を展開しています。

## TOPICS

### 東京ガス環境おうえん基金



NPO法人「印旛野菜いかだの会」による印旛沼水質浄化事業への支援

本基金は、2007年9月、東京ガスのお客さま件数が1,000万件を達成した記念事業として、同年12月に、東京ガスが財団法人日本環境協会に助成金の原資を寄付することで設立しました。広く地域社会に感謝の意を表すとともに、地域や地球の環境問題解決と持続可能な社会実現に貢献することを目的に、継続的に環境保全活動に取り組む非営利の民間団体を支援してきました。

2011年3月期では、58団体からの応募を受け、助成先14団体（助成総額1,000万円）を決定しています。2009年3月期から通算すると、延べ40団体に対して3,000万円の助成金を交付しています。

### どんぐりプロジェクト



環境教育活動「どんぐりスクール」

東京ガスでは、地球温暖化対策として、また体験型の教育の場として、森林・里山の重要性が改めて見直されている中、1993年よりNPO法人「どんぐりの会」や行政とともに、「どんぐり」を拾い、苗木を「植え」、木を「育てる」という一連の活動を通じて参加者に自然環境について考えるきっかけを提供する「どんぐりプロジェクト」を進めてきました。

2005年からは長野県北佐久郡に開設した「長野・東京ガスの森」において、私たちの暮らしと森の関わりを学ぶ体験型の環境教育活動を行っており、春・夏・秋に、森づくりと様々な自然体験プログラムを組み合わせた「どんぐりスクール」を実施しています。

2010年3月期も春・夏・秋に「どんぐりスクール」を開催し、延べ約200名の方が参加されました。動物の痕跡を発見しながら森を散策するアニマルトラッキングや、間伐材を使った木工作業等を体験していただきました。